

製革大手の山陽 環境認証を取得

姫路

タンナー（製革業者）業界大手の山陽（姫路市東郷町）が、皮革の安全性や環境対策を監査する国際団体「レザー・ワーキング・グループ」（LWG、英国）の認証を取得した。現在、世界では有名ブランドの多くが同団体に加盟し、認証のあるタンナーから革の提供を受けているという。同社は認証の取得を機に海外展開を強化する予定で、「日本の皮革を世界へ発信したい」と意気込む。

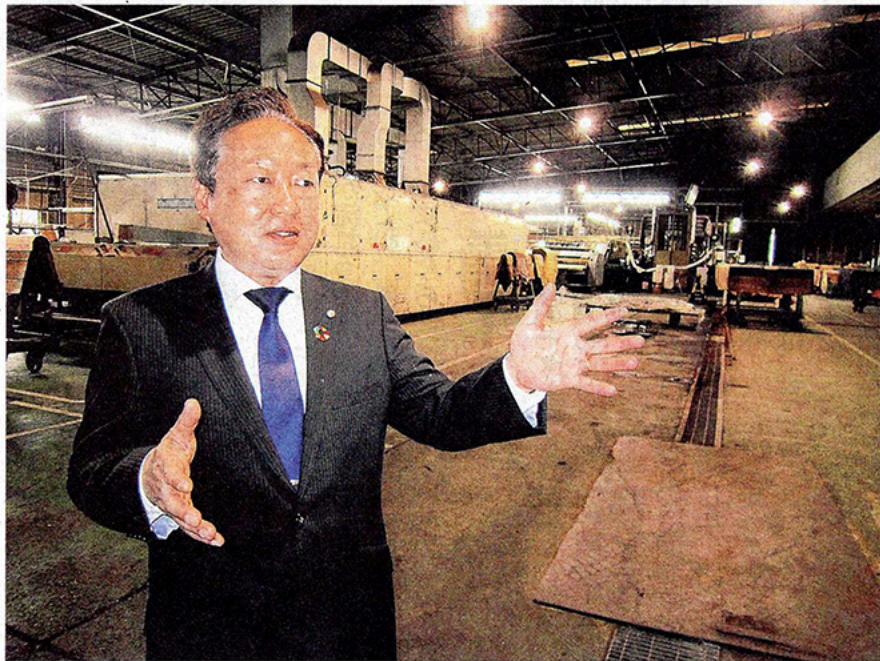
（三島大一郎）

有名ブランド加盟 国際団体から国内2社目

LWGは2005年に設立された国際団体で、レイ・ホワイトや排水処理の設備、仕入れ先のオンアシックスなど世界的な有名ブランドやタンナー、薬剤メーカーが加盟。皮革工場の電気が加算。現在、世界のタンナー約1100社が認証を取得。団体に加盟する有名ブランドは、認証のあるタンナーからのみ素材の供給を受ける傾向にある。国内では、18年に繁栄皮革工業所（たつの市）が取得している。

山陽は1911（明治44）年に設立された。総合タンナーとして、靴やかばんなどに使われる皮革を製造販売している。昨年には、革製品の自社ブランド「TANNER（タアンネリル）」も立ち上げた。国内の皮革市場が縮小傾向にある中、同社は海外市場の開拓を視野に入れており、タアンネリルの販路を拡大するためにもLWG認証の取得が不可欠だと判断。工場内の排水設備や生産管理システムを更新するなどし、3月に認証を取得した。

工場内の設備について説明する戸田健一社長
＝姫路市東郷町



「日本の皮革を世界へ発信」



LWG認証取得に向けて更新した
排水設備（山陽提供）